CQ誌　2008年1月号

144MHz

2007年と2008年の144MHz

JR3PIO　関森 源治 *Genji Sekimori*

2メーター・バンドと呼ばれ親しまれている144MHz．普段は近場のQSOがメインですが，Eスポと言われる異常伝搬により，ときとして全国的なQSOが可能になる魅力も．普段はローカル・ラグチューを楽しみ，EスポでDX交信も楽しめる入門バンドの一つです．

2008年を迎えて心新たに

2007年は，144MHzにとっては低調なコンディションで過ぎた1年だったようです．

●「やればできる」の気持ち

期待したEsもひらかずノイズばかりという日が多かったようです．しかし，高知各局の沖縄移動，有志による全国移動通信の開催など，2008年につながるFBな催しが行われたことは，記憶にとどめたいと思います．

また，広島で行われた2m SSB全国大会は主催者の努力もあり，近年にない280余名という多くの参加者がありました(ちなみに，2008年は筆者の地元，大阪で開催．全国より多数のご参加をお待ちしています)．

以上のことを考えると，まだまだ144MHzマンは健在なりと，意を強くしています．何でもそうですが「やればできる」の気持ち行動が必要ではないでしょうか．

●2008年はワッチより，CQを出そう

2008年も4月ごろよりEs発生の兆候があると思います．Esなどの異常伝搬については，全国4か所の電離層や伝搬データをWebサイトで，すぐに知ることができるため，以前のようにいろいろと工夫し，長時間にわたって待機，ワッチする必要性は少なくなっていると思われます．

これは筆者の持論ですが，異常伝搬発生の警報が出れば積極的にCQを出して，自局の存在を他局に知らせるべきではないでしょうか？

よく言われる「一にワッチ，二にワッチ……」のごとく，互いに受信だけに固執するのはNGだと考えます．積極的に声を出すことで，バンドの活性化につながると思います．

当日の天気図，配置図や温度分布，時間などを調べておいて，Esのみならずダクト，FAIなどマルチホップにも対応できるような準備をしておきたいものです．

今年も“子(ね)年”にちなんで，こまめにQRVをして，DXとのQSO，アワード，コンテストにとご活躍ください．今年は良い年でありますように！

de JR3PIO　関森源治

≪電波伝搬情報サイト≫

- 電波伝搬障害研究プロジェクト
  http://ionet-us1.nict.go.jp/IONO/
- 電離層観測データ(イオノグラム)
  http://wdc.nict.go.jp/ISDJ/

2007年のコンディションを顧みて

●2エリアから見た2007年

2007年の11月になってシーズンも終わり，私も設備のメインテナンスを行うなど来シーズンへの準備を始めています．

2007年のコンディションを振り返ると，Esのオープンが極端に少なく，低アクティビティーも加わったためか，ひらいても気づかないでいたという可能性も否定できません．

そんな中でも，アクティブな2mマン各局が移動し，新市，新郡，新町をプレゼントしてくれました．その中で一番のヒットは，6月初旬に行われた高知グループによる沖縄宮古島市ペディションでした．連日FAIがひらき，多くの方がQSOされました．

来シーズンは，どんなコンディションか？　また誰が，どこからQRVしてくれるのか，今から楽しみにしています．

de JJ2ONH　加納義也(岐阜県大垣市)

●4エリアから見た2007年

2007年の144MHzを顧みるとEs，ダクト，FAIなどいずれも太陽の活動サイクル(11年周期)に連動しているように思われます．

2006～2007年は，前サイクルから次サイクルの谷間時期と考えられます．

一昨年の2006年には，例年よりは少ないものの，EsによるQSOをそれでも3回ほどは経験することができました．ところが2007年は，私が体験したEsの発生は0回で，これは私がアマチュア無線を始めて，初めての経験でした．

ダクトなどの発生も例年よりも少なく，広島県内の移動運用から，7エリア福島県南部に移動した各局とやっとQSOができたという状況でした．したがって，7エリア各局とのEsによるQSOはなく，こんなにもコンディションが不作の年は初めての経験です．

また，FAIによるQSOも同様で，例年よりも回数が少なかったようです．しかしながら，個人的には8エリア，7エリア，1エリアとQSOができたのは，そんな低調な年でありながらも，せめてもの救いでした．

2008年はコンディションが上がり，全国の多くの2mマンとQSOできることを期待したいと思います．

de JJ4FAJ 丸本 正己(広島県東広島市，**http://hiroshima.cool.ne.jp/masa3513**)

【筆者プロフィール】
1926年，大阪市生まれ．1947年よりSWL，1973年にJR3PIO開局．近畿各愛好会会員．電波適正利用推進員．E-Mail…jr3pio@lapis.plala.or.jp

CQ誌　2008年2月号

144MHz

グローバルなローカル・コンテスト

JR3PIO　関森 源治　Genji Sekimori

2メーター・バンドと呼ばれ親しまれている144MHz．普段は近場のQSOがメインですが，Eスポといわれる異常伝搬により，ときとして全国的なQSOが可能になる魅力も．普段はローカル・ラグチューを楽しみ，EスポでDX交信も楽しめる入門バンドの一つです．

コンテストは，規模が大きなもの小さなものなど数え切れないほど存在していますが，144MHz SSBを対象とした「泉州サバイバル・ハムクラブマラソンコンテスト」はご存じでしょうか？

サバイバルと名付けられた由縁は「開局してもすぐに飽きてしまい，せっかく資格を取っても免許を切らす人が多いので，われわれは団結してこの無線の世界を生き残ろう」とのこと．

そのクラブが主催する本コンテスト(**表1**)は，昨年で22回目を数え，最近では1～0の全エリアから参加者があるといいます．第1回が開催されたときの参加局数は67局だったそうですが，直近の最高の参加局数は422局を数えたそうです．2007年は11月10日～20日にかけて開催されましたが，若干下がって314局となりました．しかし，ローカル・コンテトで，しかも144MHz SSBのみに限定されたコンテストとしては抜群の人気，知名度のあるコンテストだと思われます．全国にクラブ・メンバーがいるそうです．　de JR3PIO　関森源治

表1　本コンテストの主なルール

部門	① メンバー部門　② 一般部門
得点	●OM局とのQSO一局につき …1点 ●YL局とのQSO一局につき …5点 ●2文字コール局とのQSO一局につき ……5点 ●2文字でかつダブル・コールとのQSO一局につき ……20点 ●トリプル・コールおよびサンドイッチ・コール局とのQSO一局につき ……20点 ●当クラブ・メンバー局とのQSO一局につき ……10点 ●当クラブ・メンバーのサンドイッチ・コール局と2文字でダブル・コール局とトリプル・コール局とのQSO一局につき ……40点
マルチ	コンテスト期間中の運用日数(最大11日)
総得点	交信局数×得点合計×運用日数

コンテストの趣旨と144MHzの楽しさ

私は開局以来，144MHz(2メーター)SSBでハムを楽しんでまいりました．このバンドはアマチュア無線入門バンドとして知られていますが，何といっても簡単な設備でローカル・ラグチューに最適であり，ときとしてはEスポに遭遇してDX QSOが可能になるなど，さまざまな出会いや出来事に胸をときめかしました．

縁あって144MHz SSBを主体に運用しているローカル・クラブに入会したのがきっかけで，それまでは俗にマラソン・コンテストと称される催しには参加局の立場で気楽に応募していましたが，それ以来，主催者側に立つようになり，はや十数年になりました．

当クラブ主催のコンテスト趣旨は，何よりも普段あまり声が聞かれない多くの局長さんに，楽しく参加していただけるように企画しています．交信相手は144MHzという特性からローカル局が中心となるでしょうが，全国の参加局にはなるべく平等に，メンバー局との交信よりも，少しでも多くの局と交信をしていただくことが主旨であります．もちろん，コンテストの性格上，全国のハムと競う楽しみもありますね……！

無線での出会いは，一期一会と言いますが「やー，お久しぶり，お元気ですか？」と言葉を交わし旧交を温め，1st QSO局とも和やかに話し，またアンテナ周辺の整備，自作のときにはテストを兼ねた伝搬状況を推測，移動運用ポイントを考え，エリア外との交信も季節を問わず比較的に安定して交信できる，これが正に144MHz SSBを対象としたコンテストの素晴らしい一面ではないかと思います．

第21回の一般部門で優勝されたJA1 II 中野さん
局数は523局，得点は1,193，マルチは11で総得点は断トツの11,178,079点だった

世の中はデジタルへ移行していく中で，アマチュア無線はアナログ的な趣味の代表だと常日頃，思っていました．いくら最先端の無線設備を持っていても，相手がいなければ一人相撲となり，何ともなりません．

コンテストを通じて小さい交信の輪が繋がり，大きな輪に広げていくためには多くの方に参加をいただき，このコンテストがお祭りのようになっていく……神輿を担いで楽しんでいただくことがいちばんです．144MHz SSBはこの条件にぴったりとあてはまります．

144MHzバンドはアマチュア無線入門バンドと親しまれているがゆえ，いつまでも末永く楽しんでいける隠された魅力があると信じています．今後とも各局の絶大なるご支援を賜りますようお願い申し上げます．88 & 73

de JE3CTW 桂井 郁男

[筆者プロフィール]
大阪市生まれ，1947年よりSWL，1973年にJR3PIO開局．近畿各愛好会会員，電波適正利用推進員．E-Mail…jr3pio@lapis.plala.or.jp

CQ誌　2008年3月号

144MHz

コンテストで楽しむ144MHz

JR3PIO　関森 源治 *Genji Sekimori*

2メーター・バンドと呼ばれ親しまれている144MHz．普段は近場のQSOがメインですが，Eスポといわれる異常伝搬により，ときとして全国的なQSOが可能になる魅力も．普段はローカル・ラグチューを楽しみ，EスポでDX交信も楽しめる入門バンドの一つです．

先月，ご紹介した泉州サバイバル マラソン・コンテストで優勝された経験を持つJA1II 中野さん．

1953年5月に開局され，長く，144MHzの運用を続けてこられたということですが，このコンテストとの出会いや144MHzを中心としたハムライフについてご紹介いただきました．

de JR3PIO　関森 源治

参加して知る醍醐味

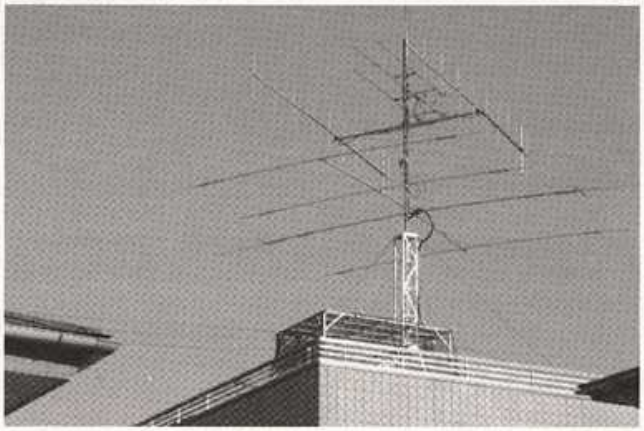
9年前のこと，非常に珍しいルールのコンテストがあるが，参加しないかとの誘いを受けました．144 MHz SSBのコンテストで，得点が1000万点以上になるとのことでしたが，そんな高得点を取れるのか疑問でした．

普段は静かな144MHz SSBバンドです．日頃はFMによるローカルQSOが多く，SSBでは遠距離交信が行われていました．しかし，3エリアの局とQSOができるのか，半信半疑でしたが参加を決めました．一度参加するとその醍醐味が忘れられず，その後，毎年参加するようになりました．

コンテストが始まると1エリアでは普段静かなバンドが，参加者が増えてお祭騒ぎになります．

このコンテストは期間中の移動運用ができる珍しいルールで，高得点を得るには電波が飛ぶ場所の選定，高性能空中線の使用，リグの性能，低雑音受信プリアンプ，ロスの少ない同軸ケーブルの準備が必要です．

私はこの11日間のコンテスト中，土日曜日は移動運用，平日の昼間は体力をつけ，FMの混信の少ない夜の時間帯に運用しました．得点には運も伴うようです．



JA1II 中野さんのアンテナ・システム
アンテナはクリエート11エレ×2で15m高，リグはIC-910Dをメインに使う．お住まいは東京湾に面した横須賀市内の閑静な住宅地（海抜0m）で，富士山および横浜，千葉方面には視界が良く，伝搬は全方向とも比較的良好だ

2，3エリアとの交信には富士山南側のビームを，東京方向は北のビームまたは丹沢，富士山反射を使用します．東京の局の話では，関西との交信には富士山の北側ビームを使用するようです．

2006年には，幸運にも一位となりました．このコンテストの醍醐味を忘れずに，今後も続けて参加したいと思っています．

●144MHzに思うこと

144MHzの伝搬には，直接波，山岳反射波・山岳回折波・海面反射，ダクトなどがあります．

1992年6月に，一生に一度あるかと思える太平洋ダクトに遭遇しました．JA8コンテスト中，偶然にも根室の局と144MHz～1200MHzいずれのバンドでもRS59＋＋で交信したのは今でも忘れられません．

富士山五合目移動でも，面白い経験がありました．同高度の富士宮側と正反対のスバルライン側との交信ができたのです．また飛行中の航空機反射によって，自宅から8エリアの局とできた交信も，数秒の時間でしたがよい体験となりました．

●アクティビティー

144MHzを始めた時期は1980年頃，その後オールバンドでWACA，WAGAを完成，全日本一万局よみうりアワードを1988年に受賞しました．

昨今の運用は主に土日曜日の夕方です．所属するJARL横須賀クラブの毎週日曜日1000からの144 MHz FMによるミーティングには必ず参加します．JARL主催のコンテスト・関東支部主催のコンテストなどや地域の各種行事にも参加しています．

交信実績は約8万局，うち144 MHzでは約1万局です．今後はJCA15000達成を目標（現在はJCA 12500）としています．

de JA1II　中野 昌男

【筆者プロフィール】
大阪市生まれ，1947年よりSWL，1973年にJR3PIO開局．近畿各愛好会会員．電波適正利用推進員．E-Mail…jr3pio@lapis.plala.or.jp

CQ誌　2008年4月号

144MHz

和文CWとアクティブ・クラブ局

JR3PIO　関森 源治　Genji Sekimori

2メーター・バンドと呼ばれ親しまれている144MHz．普段は近場のQSOがメインですが，Eスポといわれる異常伝搬により，ときとして全国的なQSOが可能になる魅力も．普段はローカル・ラグチューを楽しみ，EスポでDX交信も楽しめる入門バンドの一つです．

1エリアのCWアクティビティー

144MHzでCWを楽しんでいます．このバンドのCWは，和文ができる方が多いという傾向があり，和文交信になることも多々あります．私も主に和文QSOを楽しんでいます．

周波数としては，144.045～144.090MHzあたりで1エリアの局のQSOが聞かれます．ラグチューを楽しまれている方が多いようです．どちらかというと，やはり和文局が目立ちます．局数自体が多くはないので，常連局が，決まった周波数付近で運用されていることが多いようです．もちろん欧文によるQSOも聞かれますが，やはり数は少ないようです．逆に，和文のできる局が，あえて欧文でCQを出している方もいらっしゃいます．

アクティビティーが上がるのは夜間(1900以降)や週末といったところです．たまに144.055MHzあたりで，移動サービス局のCQを聞くこともあります．夜間の移動サービスは，衛星のサービスなどで移動した局が，空き時間でサービスを行っていることもあるようです．

週末にはA1クラブがオン・エア・ミーティングを開催していますし，日曜日には私もキー局をやっている2m CWロールコール（毎週80局前後のチェックインあり）もあります．他エリアでも144MHzでのロールコールやオン・エア・ミーティングが増えてきているようです．　de 7L3XGI　加藤 利徳

アクティブ・クラブ局紹介●手作り山小屋シャック

奈良フレンズクラブは，1974年末にアマチュア無線を楽しむ有志が集い，検討を重ねて1975年2月に開設したものです(**写真1**)．

クラブ員は144MHz SSBの運用に意欲的に取り組んでおり，吉野郡高見山，天理市竜王山，五條市金剛山，御所市葛城山，吉野郡大台ヶ原などに移動用機器機材一式を担ぎ上げて，精力的に移動運用を行ってきました．しかしメンバーの高齢化ということがあり，常設のクラブ・シャックを建設したいとの気運が高まりました．そこで奈良県桜井市と大宇陀町に跨る音羽山の稜線上に建設を開始，問題を克服し1981年に完成，常置場所になりました．その後1995年，奈良県より移設を行って欲しい旨の申し入れがあり，1997年初夏，約70m離れた位置に2代目の山小屋が完成しました(**写真2**)．

シャックは地面より2mほど床を高くしており，ハシゴで昇降可能，通気性が良く，雨，湿気を防ぐ構造になっています．木製電柱4本を櫓状に組み，途中に4層の階があります．最上階には鉄製アングル(5.5m×4本)のタワーを組み，ローテーターに10mセンターポールを建てて430MHzの10エレ×4と144MHzの13エレ×2を上げています．また，トップには50MHzを含む3バンドGPが上がり，HF用ワイヤ・アンテナが設置されています．

当初は自家発電機を使っていたようですが，現在では受電契約を結び商用電源100V，2.5kWを確保しています．

素人に近いメンバーが互いに知恵と労力を提供して作り上げ，アイデアを出し合い，日々改良しているとのことです．　de JR3PIO　関森源治

写真1　JH3ZNW 奈良フレンズクラブの皆さん

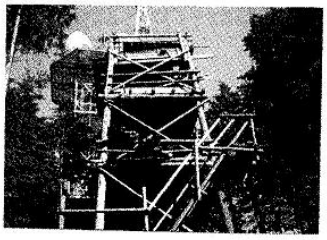


写真2
2代目の山小屋シャック
昨年夏には7J7ACTサイモンさんも訪問．144MHzを始め，各バンドでパイルアップを受けたとのこと

【筆者プロフィール】
大阪市生まれ．1947年よりSWL，1973年にJR3PIO開局．近畿各愛好会会員．電波適正利用推進員．E-mail…jr3pio@lapis.plala.or.jp